

# 吉田内科小児科ニュース

今月のテーマ  
花粉症

発行所：土川内科小児科  
二本松市榎木250の3  
TEL:0243-22-6688  
編集責任者：土川研也

今年の冬は暖冬というこ  
とで、インフルエンザも散発  
的には発生しているものの、  
今のところ昨年のような大流  
行にはならず済んでいる  
ようです。今シーズンはイ  
ンフルエンザワクチンを受ける方が多かった  
ことが大流行を未然に防ぐ効果があったの  
かどうかは、今後解析に待たなければなり  
ませんが、一安心といつ所でしょうか。



## 土川内科小児科ニュース

スギ花粉をまき散らす雄花の量は、前年  
の7~8月初旬の気候条件で左右され、な  
かでもおおきな影響を与えるのが、日射量  
と降水量と考えられています。昨年の7~8  
月初旬の気温は、関東東北・北海道地方で  
平年より高く、日照時間もほぼ同じ状況で  
した。降水量については、7月中旬に  
多かったものの、これは集中豪雨的  
なもので、関東から東北地方にかけ  
ては総じて雄花の成長にとって好条  
件がそろっていました。実際のスギ  
花粉飛散数の推定は、このような気  
象条件のほかに、雄花がどれくらい  
着生しているか、一房につく雄花の  
数や重量はどうかといった調査の結  
果を加味して行われます。その結果、  
今年の花粉飛散量は、平年の1.7  
倍(多い所では2.9倍)と発表され

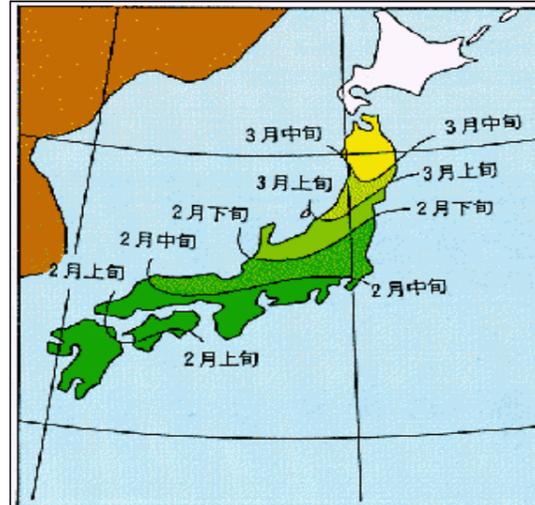
ました。  
次に、スギ花粉の飛散開始時期はどうか  
と推定しているのでしょうか。スギ花粉の飛  
散開始は、最高気温を積算した数が400  
を越えると始まると言われています。例え  
ば、東京を例に取ると、1月の最高気温の  
平年値が9.5度、2月が9.7度ですから、  
400÷(9.5×31)÷(9.7-1.1(日))となり、気温  
が平年並みで経過すれば、2月11日頃がス  
ギ花粉の飛散開始日の目安の1つになるわ  
けです。もう一つは、飛散日が近づいてきた  
頃に、最高気温が15度を越えると継続し  
た飛散が始まることが多くなります。

以上を総合的に判断して、今年も東京  
の飛散開始日が平年より10日前後早く、  
2月7日頃と発表されました。福島県は東  
京から約10日前後遅れますので、2月17  
日頃が飛散開始日と推定されます。  
では、いつまで飛んでいるのでしょうか。こ  
れは、毎年の観察から、大体福島県では、5  
月のゴールデンウィークの頃まで  
と言われています。但し、ひのき  
に対しても反応する方は、5月いつ  
ぱい症状が続きますのでご注意

平成12年 2月

**\*予防接種の時間 午後1:30~2:00**  
\* 今月は特別な予定はありません。

飛散開始日とは、1平方センチメートルの観測地点に1個  
以上の花粉が2日以上連続して採取される日の初日を飛散  
開始日といします。この開始日以前に10~20%の患者さん  
がすでに症状が出ています。



下さい。  
今年も、東京都が調査を開始して以来、  
最も飛散花粉数が多かった1995年に次ぐ  
飛散数で、しかも飛散している日数も例年  
より長いと言われております。しかも199  
6年以降、花粉の飛散数は平年以下で、木  
に養分が蓄えられているとみられることな  
どから、場所によっては1995年を上回る  
場合もありそうとも言われており、飛散数  
が少なかつた昨シーズンに比べると最大10  
倍も多く飛散するとみられるだけに、注意  
が必要で、ここ数年軽かつた方も今年に  
十分な対策を講じるべきでしょう。

実際にはテレビや新聞の天気予報の「ナナ  
ー」で、花粉症のシーズンとなりますと色々  
気象条件を考慮してその日の飛散予想が詳  
しく載りますので、それを参考にするのが  
良いと思います。  
最後に花粉症の最近の治療について触れて  
みたいと思います。新しい花粉症治療薬は  
色々出てきておりますが、まだ脱感作療  
法などの根治療法は確立されておられません。  
症状をコントロールする治療が中心となり  
ます。特に強調されているのは、シーズンに  
突入し症状が強くなつてからではなく、そ  
の前に治療を開始する事です。早い時期か  
らの服用を開始すると、あまり重症化せず、  
発症しても軽くすむ事が色々な研究でわかっ  
ているのです。具体的には花粉飛散予想日  
の約2週間前から抗アレルギー剤を服用し  
ます。そしてそれをシーズン終了まで続け  
るわけです。  
次に大切なことは、自分の症状にあわせ  
た治療を行う事です。一口にスギ花粉症と  
言っても軽症から重症まで色々なランクに  
分けられます。治療薬にも色々な強さのも  
のがありますので、重症の方には強い薬を、  
軽症の方には作用の穏やかな薬をという使  
い分けをします。尤も、長年花粉症とつき合っ  
ている患者さんは、自分にあつた治療薬の  
組み合わせをすでにご存じですので、いつも  
の薬でお願いしなすと言つてご中間に合つて  
しまつ事がほとんどです。ただ、花粉の飛散  
の多い年には、従来の組み合わせでは症状  
をコントロールできないこともありますので、  
そのような時には遠慮しないで、主治医に  
相談しましょう。

この情報紙のコピー及びバックナンバーをご希望の方は受付までどうぞ。